

2019. 9. 12

畑 啓之

雄岡山、雌岡山はいなみ野の人々にとっては命を育む水を意味したに違いない

稲美町に住む人々は、東北に見える二つの山を愛情をこめて「雄岡山（おっこさん）、雌岡山（めっこさん）」と呼ぶ。水に恵まれなかったいなみ野の人々に、わずかながらでも水を提供してくれたこれらの山々は、いなみ野に暮らした農民の命を繋ぐ貴重な水であったに違いない。



草谷川（Wikipedia）には次のように記されていて、正に命を繋ぐ水である。



図2 加古川下流部地質図

草谷川（くさたにがわ）は、兵庫県神戸市西区と三木市の境界を画し、加古郡稲美町を経て再び三木市に入り、加古川の加古川大堰に至る河川で、河口付近では八幡川とも呼ばれる。透水性が強い印南野の台地にあって、数少ない自然形成河川である。

岡光夫（元同志社大学教授）の『加古川流域農村史研究』では古文書を引用し源流は「明石郡天王山（雌岡山）」としているが、現在その流路は存在しない。

さらに Wikipedia からの引用である。

雄岡山（おっこさん）は、神戸市西区神出町にある標高 241.2m の丘である。東播台地上の独立峰。西に 2km 離れた雌岡山と対峙し、共にふるさと兵庫 100 山に選定されている。加古川水系と明石川水系の分水嶺となっている。

雌岡山（めっこさん）は、神戸市西区神出町にある標高 249m の山である。東播台地上の独立峰。東に約 2km 離れた雄岡山と 2 つのため池（金棒池、大皿池）をはさみ対峙する。2 山は古くから信仰の対象とされている。

稲美町と雄岡山・雌岡山の位置関係を地図で確認した。矢印はおおよその傾斜の方向を示している。雄岡山から出た草谷川は稲美町の北部を通って加古川（厄神と神野の間地点）へと抜ける。

明治期にまず淡河疏水が、対象期に山田疏水が完成していなみ野台地にも豊富な水が供給されるようになった。その命の水を確保するための苦労の物語は、稲美町史（1982 年）に詳しく記されている。



次ページ以降に、稲美町から見る雄岡山・雌岡山の写真を貼付した。



